

令和3年度 第1回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和3年6月24日(木) 10:00～11:30
- 場 所 多目的ホール (Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、今井正和委員、田中洋介委員、若原道昭委員、
児嶋祥悟委員、林昭男委員、山田憲典委員、山田修平委員、米田裕子委員、
[10名/10名]
北野彬子監事、小谷昇監事 [2名/2名]
- 欠席者 なし

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 令和3年度新型コロナウイルス感染症対策の概況

事務局から、令和3年度新型コロナウイルス感染症対策の概況について報告があった。

〈主な意見等〉

- ・新型コロナワクチン職域接種における、学生の接種希望者の割合はどの程度あるのか。
→ (回答)：1割程度の学生が接種を希望していない。また、就職活動等の関係でワクチン接種日に来られないという学生が一定数いる。

3 審議事項

(1) 令和3年度第1回補正予算(案)について

事務局から、令和3年度第1回補正予算(案)について説明があり、原案について承認された。

(2) 令和2年度事業に係る業務実績報告書について

事務局から、令和2年度事業に係る業務実績報告書について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・競争的外部資金の獲得者数が前年度に比べ下回った要因は何か。要因を検討し、是非今後に繋げてもらいたい。
→ (回答)：学部長を中心に教員と面談をしながら、不採択の原因を探り、競争的外部資金の採択率向上を目指して、引き続きPDCAサイクルを続けていく。
- ・今年度からの入試改革によって、各公立大学が総合型選抜や学校推薦型選抜の枠を拡大している。その中でも本学は、西日本の公立大学の中でも、総合型選抜や学校推薦型選抜合格者の比率が多いので、この特色を是非高校側に情報提供してほしい。
→ (回答)：学長自らが県内高校を訪問し、意見交換・情報提供を行っている。情報提供だけでなく、高校側の声を直接聞くことを意識し、今後も活動を進めていく。
- ・卒業見込み者に占める就職内定率が、経営学部比べて環境学部は79.4%と低いように見受けられるが、何か理由があるのか。また、これは毎年同じような傾向があるのか。
→ (回答)：毎年、環境学部は経営学部比べて進学・留学を希望する学生が多い。令和2年

度は特に、大学院進学者が多かった。

〈主な意見等〉

- ・SDGsに関連して、カーボンニュートラルについて、今学として今後どのように取り組む予定とされているのか教えて欲しい。環境に関する研究・教育機関として、非常にぴったりのテーマだと思うため、小さなことから良いので是非前向きに検討して欲しい。
→（回答）：大学として現時点ではまだ、カーボンニュートラルの取り組みについての大きな柱というものはなく、未だ検討している状況だが、この度、株式会社鳥取再資源化研究所から客員研究員として本学に採用した。共に研究を進めながら、カーボンニュートラルについてしっかり考えていく。

（3）令和2年度決算について

事務局及び北野監事から、令和2年度決算について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・民間企業では、決算についてもっと詳細に説明する。特に資産の部分については、更に丁寧な説明を求める。

4 報告事項

（1）開学20周年記念事業の実施について

事務局から、開学20周年記念事業に実施について報告があった。

（2）大学機関別認証評価の結果について

事務局から、大学機関別認証評価の結果について報告があった。

（3）令和3年度に実施する法人評価（中間評価）について

事務局から、令和3年度に実施する法人評価（中間評価）について報告があった。

（4）令和3年度専任教員の昇任について

事務局から、令和3年度専任教員の昇任について報告があった。

（5）公立鳥取環境大学学長の再任審査について

事務局から、公立鳥取環境大学学長の再任審査について報告があった。

（6）近況報告について

事務局から、近況報告について報告があった。

5 閉会